

コリント人への手紙第二 11 回

エルサレム教会への献金 (2)

— 献げる動機 —

8 : 8～24

はじめに

1. 文脈の確認

- (1) イントロダクション (1 : 1～11)
- (2) パウロを疑う者たちへの回答 (1 : 12～7 : 16)
- (3) エルサレム教会への献金 (8 : 1～9 : 15)
 - ①マケドニアの諸教会の例 (8 : 1～7)
 - ②献げる動機 (8 : 8～15)
 - ③テトスの熱意 (8 : 16～24)
 - ④コリント訪問の予定 (9 : 1～5)
 - ⑤喜んで与える祝福 (9 : 6～15)

2. 注目すべき点

- (1) パウロは、異邦人教会からの献金をエルサレム教会に届けようとしている。
- (2) 彼の熱心さの背後には、さまざまな理由があった。
- (3) パウロは、キリスト論を基に献金について論じる。

3. アウトライン

- (1) 献げる動機 (8～15 節)
- (2) テトスの熱意 (16～24 節)

4. 結論：キリスト論を基にした献金の教え

献金に関するパウロの勧告について学ぶ。

I. 献げる動機 (8～15 節)

1. 8 節

2Co 8:8 私は命令として言っているではありません。ただ、他の人々の熱心さを伝えることで、あなたがたの愛が本物であることを確かめようとしているのです。

- (1) パウロが献金を勧める意図

- ①命令ではない。
- ②マケドニアの信者たちの熱心さを伝えている。
- ③彼らの熱心さと対比することで、コリントの信者たちの愛を確かめている。
- ④神は、喜んで献げる者を祝福してくださる。

2. 9 節

2Co 8:9 あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるためです。

(1) この聖句は、この書簡の中で最も美しいものの一つである。

- ①パウロは、キリスト論から献金の本質について論じる。

(2) 「主イエス・キリストの恵み」

- ①ここでの「恵み」は、「寛大さ」、「気前良さ」を指している。
- ②主は富んでおられたのに、私たちのために貧しくなられた。
- ③それは、私たちが富む者となるためである。
- ④この節は、神の子の受肉に言及している。

3. 10～11 節

2Co 8:10 この献金のことについて、私の意見を述べましょう。それがあなたがたの益になるからです。あなたがたは献金を実行することだけでなく、その志を持つことも、昨年からは始めて他に先んじていました。

2Co 8:11 ですから今、それをやり遂げなさい。喜んでしようと思ったとおりに、持っているものでやり遂げてください。

(1) コリントの教会への助言

- ①この助言は、彼らの益になるものである。
- ②彼らは、一年前から、このような献金をしようという志を持った。
- ③それは、マケドニアの諸教会が献金を集め始める前のことであった。
- ④しかし、なんらかの理由でそれが実行に移されていない。
- ⑤今こそ、それをやり遂げるべきである。
- ⑥収入が増えてからではなく、今持っているものでやり遂げるべきである。
- ⑦喜んでしようと思ったのだから、そのとおりにすべきである。

4. 12 節

2Co 8:12 喜んでする思いがあるなら、持っていないものに応じてではなく、持っているもの

に応じて受け入れられるのです。

(1) 彼らは、より多くのものを献げようとして、献金を先延ばしにしていた。

①パウロは、今行動することの重要性を強調した。

(2) 訳文の比較

「その熱意があるなら、持たないものではなく、持っているものに応じて、神に受け入れられるのです」(共同訳)

「進んで与える気持ちがあるなら、受け入れられます。持っている物を与えればよいのです。持っていない物までは期待されていません」(リビングバイブル)

①神は、献げる額ではなく、心を見ておられる。

5. 13～14 節

2Co 8:13 私は、他の人々には楽をさせ、あなたがたには苦勞をさせようとしているのではなく、むしろ平等になるように図っています。

2Co 8:14 今あなたがたのゆとりが彼らの不足を補うことは、いずれ彼らのゆとりがあなたがたの不足を補うことになり、そのようにして平等になるのです。

(1) 献金の目的

①エルサレム教会を楽にさせ、コリント教会を苦しめることではない。

②両者が平等になるようにするのが、献金の目的である。

③今は、コリント教会からエルサレム教会に富が流れる。

④将来、その流れが逆転することもあり得る。

6. 15 節

2Co 8:15 「たくさん集めた人にも余ることはなく、少しだけ集めた人にも足りないことはなかった」と書いてあるとおりです。

(1) 出 16 : 18 を基に、平等の原則が語られる。

①1 人当たり毎日 1 オメル（約 2.2 リットル）のマナを集める。

②たくさん集めた人にも余ることはなく、少しだけ集めた人にも足りないことはなかった。

③考えられる可能性は 2 つある。

* 神が奇跡を行われた。

* 民がマナを分け合った。

II. テトスの熱意 (16～24 節)

1. 16 節

2Co 8:16 神に感謝します。私があなたがたのことを思っているのと同じ熱心を、神はテトスの心にも与えてくださいました。

(1) パウロは、テトスという同労者が与えられていることを神に感謝している。

- ①パウロは、コリントの信者たちを愛している。
- ②テトスも同じ心を持っている。
- ③基本的な価値観を共有できる同労者の存在は、貴重である。

2. 17 節

2Co 8:17 彼は私の勧めを受け入れ、大変な熱意をもって、自分から進んであなたがたのところに行こうとしています。

(1) パウロはテトスにコリントに行くように勧めた。

- ①この手紙を持ってコリントに行く。

(2) しかしテトスは、自らの意志でコリントに行こうとしている。

- ①パウロの勧めは不要であった。

3. 18～19 節

2Co 8:18 私たちはテトスと一緒に一人の兄弟を送ります。この人は福音の働きによって、すべての教会で称賛されています。

2Co 8:19 そればかりでなく、彼は、この恵みのわざに携わる私たちの同伴者になるようにと、諸教会の任命を受けています。私たちはそのわざに、主ご自身の栄光と私たちの熱意を現すために仕えています。

(1) 献金の扱いに関して、パウロは細心の注意を払う。

- ①無名の兄弟がテトスに同行する。
- ②主は、無数の無名の弟子を持っておられる。

(2) この無名の兄弟の特徴

- ①福音伝達において、すべての教会で称賛されている。
- ②エルサレム教会に献金を運ぶわざに参加するよう、諸教会の任命を受けている。
- ③このわざは、主の栄光とパウロの一行の熱意が現れるためのものである。

4. 20～21 節

2Co 8:20 私たちは、自分たちが携わっているこの惜しみないわざについて、だれからも非難されることがないように努めています。

2Co 8:21 主の御前だけでなく、人々の前でも正しくあるように心がけているのです。

(1) 献金を扱う際の注意点

- ①だれからでも非難されないようにする。
- ②2 人ないし 3 人が、この貴重な献金を運ぶ。

(2) 神と人の前で、正しくあるように心がけている。

①箴 3 : 3～4

Pro 3:3 恵みとまことがあなたを捨てないようにせよ。／それをあなたの首に結び、／心の板に書き記せ。

Pro 3:4 神と人の前に／好意を得、聡明であれ。

5. 22 節

2Co 8:22 また、彼らと一緒にもう一人、私たちの兄弟を送ります。この兄弟が多くのことについて熱心であることを、私たちは何度も認めることができました。彼は今、あなたがたに深い信頼を寄せ、ますます熱心になっています。

(1) もう一人の無名の兄弟

- ①彼は、多くのことについて熱心である。
- ②彼は、コリントの信者たちに深い信頼を寄せている。
- ③彼は、エルサレム教会への献金について、ますます熱心になっている。

6. 23 節

2Co 8:23 テトスについて言えば、彼は私の仲間であり、あなたがたのために働く同労者です。私たちの兄弟たちについて言えば、彼らは諸教会の使者であり、キリストの栄光です。

(1) 3 人の使者について、コリントの信者たちはこう説明することができる。

①テトス

- *パウロの仲間である。
- *コリントの信者たちのために働く同労者である。

②2 人の無名の兄弟

- *諸教会への使者である。
- *キリストの栄光を映す者である。

7. 24 節

2Co 8:24 ですから、あなたがたの愛の証拠と、あなたがたを私たちが誇りとしている理由を、彼らに対して、諸教会の前に示してほしいのです。

(1) パウロの勧告

- ①3 人の使者を受け入れ、彼らに献金を委ねて欲しい。

- ②これは、コリントの信者たちの愛の証拠となる。
- ③これで、パウロがコリントの信者たちを誇りとしている理由が明らかになる。
- ④これを、諸教会の前に示してほしい。

結論：キリスト論を基にした献金の教え

1. 2 コリ 8 : 9

2Co 8:9 あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるためです。

(1) 主イエスは、永遠の昔から存在しておられた神である。

- ①主は富んでおられた。
- ②受肉前の主は、父なる神とともに天にあり、栄光をまといおられた。

(2) 主イエスは、私たちのために貧しくなられた。

- ①ベツレヘムでの誕生
- ②ナザレでの生活
- ③3 年半の公生涯
- ④ゲツセマネでの祈り
- ⑤ゴルゴタでの苦しみ

(3) 献金は、主イエスが示された愛への応答である。

コリント人への手紙第二 12 回

エルサレム教会への献金（3）

—喜んで与える祝福—

9：1～15

はじめに

1. 文脈の確認

- （1）イントロダクション（1：1～11）
- （2）パウロを疑う者たちへの回答（1：12～7：16）
- （3）エルサレム教会への献金（8：1～9：15）
 - ①マケドニアの諸教会の例（8：1～7）
 - ②献げる動機（8：8～15）
 - ③テトスの熱意（8：16～24）
 - ④コリント訪問の予定（9：1～5）
 - ⑤喜んで与える祝福（9：6～15）

2. 注目すべき点

- （1）パウロは、異邦人教会からの献金をエルサレム教会に届けようとしている。
- （2）彼の熱心さの背後には、さまざまな理由があった。
- （3）パウロは、キリスト論を基に献金について論じる。
- （4）パウロは、コリント訪問を予定している。

3. アウトライン

- （1）コリント訪問の予定（9：1～5）
- （2）喜んで与える祝福（9：6～15）

4. 結論：ことばに表せないほどの賜物

献金に関するパウロの勧告について学ぶ。

I. コリント訪問の予定（9：1～5）

1. 1 節

2Co 9:1 聖徒たちのためのこの奉仕については、これ以上書く必要はありません。

（1）訳文の比較

「聖なる者たちへの奉仕について書くのは、もうこれで十分でしょう」（共同訳）

「神の民である人々を援助することについては、今さら言う必要はありません」（リ

ビングバイブル)

(2) 「これ以上書く必要はありません」と言いながら、パウロは書く。

- ①この節には、緩やかな「皮肉」（アイロニー）が含まれている。
- ②アイロニーは、ユーモアや批判を含むコミュニケーションの手段である。
- ③コリントの信者たちは、エルサレム教会に献金を送ることを決心した。
- ④しかし彼らは、まだそれを実行していない。

2. 2 節

2Co 9:2 私はあなたがたの熱意を知り、そのことでマケドニアの人々にあなたがたのことを誇って、アカイアでは昨年準備ができていると言ったのです。あなたがたの熱心は多くの人を奮い立たせました。

(1) パウロは、一年前からマケドニアの信者たちに告げていた。

- ①アカイア（コリント）の信者たちは、すでに準備ができている。
- ②それを聞いたマケドニアの信者たちは、自分たちも献金を送ろうと奮い立った。
- ③コリントの信者たちの熱心が、多くの人を奮い立たせたのである。

3. 3～4 節

2Co 9:3 私が兄弟たちを送るのは、あなたがたについての私たちの誇りが、この点で空しくならないためであり、私が言っていたとおりに準備してもらうためです。

2Co 9:4 そうでないと、もしマケドニアの人々が私と一緒に行って、準備ができていないのを見たら、あなたがたはもちろんです、私たちも、このことを確信しただけに、恥をかくことになるでしょう。

(1) パウロは3人の兄弟たちを送ろうとしている。

- ①テトスと無名の2人の兄弟（8章）
- ②彼らの役目は、パウロが到着する前に、献金を集め終えることである。

(2) パウロの旅に、マケドニアの信者が同行する可能性がある。

- ①着いたときに、献金の準備ができていないなら、恥をかくことになる。
- ②コリントの信者たちは、恥をかくことになる。
- ③コリントの信者たちのことを自慢していたパウロも、恥をかくことになる。

「もしマケドニアの人たちが私といっしょに行って、あなたがたがまだ準備していないのを見たら、どうでしょう。あれだけ信じきっていた私は、非常に恥をかくことになるでしょう。そしてもちろん、あなたがたも恥ずかしい思いをするでしょう」

（リビングバイブル）

4. 5 節

2Co 9:5 そこで私は、兄弟たちに頼んで先にそちらに行ってもらい、あなたがたが以前に約束していた祝福の贈り物を、あらかじめ用意しておいてもらうことが必要だと思いました。惜しみながらするのではなく、祝福の贈り物として用意してもらうためです。

(1) 3 人の兄弟たちを先に派遣する理由

- ①コリントの信者たちが以前に約束していたことを実行に移すため。
- ②この献金は、祝福の贈り物である。
- ③惜しみながらするのではなく、エルサレムの聖徒たちを祝福するために献げる。

II. 喜んで与える祝福（9：6～15）

1. 6 節

2Co 9:6 私が伝えたいことは、こうです。わずかだけ蒔く者はわずかだけ刈り入れ、豊かに蒔く者は豊かに刈り入れます。

(1) 農業における収穫の法則

- ①種を持っている農夫がいる。
- ②どれだけ蒔き、どれだけ食糧として残しておくかは、農夫の判断で決まる。
- ③収穫量は、蒔いた種の量によって決まる。
- ④収穫量は、蒔いた種の何倍にもなる。

(2) 収穫の法則の献金への適用

- ①わずかだけ蒔く者は、わずかだけ刈り入れる。
- ②豊かに蒔く者は、豊かに刈り入れる。
- ③収穫は、蒔いた量の何倍にもなる。
- ④この場合の収穫は、金銭のことだけでなく、霊的祝福も含む。

2. 7 節

2Co 9:7 一人ひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は、喜んで与える人を愛してくださるのです。

(1) 豊かに蒔きながら、幸せでない人がいる。

- ①いやいや蒔く人
- ②強いられて蒔く人

(2) 神は、喜んで与える人を愛してくださる。

- ①自分の必要を考える。

- ②隣人の必要を考える。
- ③すべての要素を考えた上で、心に決める。
- ④その額を、喜んで献げる。

(3) 詩 50 : 10～12

Psa 50:10 森のすべての獣はわたしのもの。／千の丘の家畜らも。

Psa 50:11 わたしは 山の鳥も残らず知っている。／野に群がるものたちも わたしのもとにいる。

Psa 50:12 たとえ飢えても わたしはあなたに言わない。／世界とそれに満ちるものはわたしのものだ。

- ①神は、何かに不足しているわけではない。
- ②神は、私たちの心を求めておられる。

3. 8 節

2Co 9:8 神はあなたがたに、あらゆる恵みをあふれるばかりに与えることがおできになります。あなたがたが、いつもすべてのことに満ち足りて、すべての良いわざにあふれるようになるためです。

(1) 豊かに蒔くことを願う人には、神が答えてくださる。

「神様は、必要なものは何でもあり余るほど与えて、不足がないようにして下さいます。それで、必要が満たされたあと、なお十分な余裕があるので、他の人々に喜んで分けることができるのです」（リビングバイブル）

4. 9 節

2Co 9:9 「彼は貧しい人々に惜しみなく分け与えた。彼の義は永遠にとどまる」と書かれています。

(1) 詩 112 : 9

Psa 112:9 彼は貧しい人々に惜しみなく分け与えた。／彼の義は永遠に堅く立ち／彼の角は栄光のうちに高く上げられる。

- ①豊かに種を蒔いた人がいる。
- ②彼は、貧しい人々に惜しみなく分け与えた。
- ③彼は、敗者ではなく、天に宝を積む者となった。

5. 10～11 節

2Co 9:10 種蒔く人に種と食べるためのパンを与えてくださる方は、あなたがたの種を備え、増やし、あなたがたの義の実を増し加えてくださいます。

2Co 9:11 あなたがたは、あらゆる点で豊かになって、すべてを惜しみなく与えるようになり、それが私たちを通して神への感謝を生み出すのです。

(1) 祝福の好循環（農夫のたとえに戻る）

- ①神は、種蒔く人に種と食べるためのパンを与えてくださる。
- ②神は、豊かに蒔く人の収穫を増やし、さらに豊かに蒔けるようにしてくださる。

(2) コリントの信者たちへの適用

- ①喜んで献金するなら、貧しくなるのではなく、あらゆる点で豊かになる。
- ②その豊かさの中から、さらに惜しみなく与えるようになる。
- ③その姿を見て、パウロたちは、神に感謝を献げるようになる。

6. 12 節

2Co 9:12 なぜなら、この奉仕の務めは、聖徒たちの欠乏を満たすだけでなく、神に対する多くの感謝を通してますます豊かになるからです。

(1) エルサレム教会への献金がもたらす祝福

- ①聖徒たちの欠乏を満たす。
- ②多くの人たちが、神に感謝するようになる。

(2) パウロは、「神への感謝」を重視する。

- ①御心に適う行為は、神への感謝を生み出す。

7. 13～14 節

2Co 9:13 この務めが証拠となって、彼らは、あなたがたがキリストの福音の告白に対して従順であり、自分たちや、すべての人に惜しみなく与えていることを理解して、神をあがめるでしょう。

2Co 9:14 そして彼らは、あなたがたのために祈るとき、あなたがたに与えられた、神のこの上なく豊かな恵みのゆえに、あなたがたを慕うようになります。

(1) エルサレム教会への献金がもたらす更なる祝福

- ①ユダヤ人信者の中には、異邦人の救いに関して疑いを抱く者たちがいた。
- ②この献金は、コリントの信者たちが本当に救われていることの証拠となる。
- ③気前のよい献金のゆえに、エルサレムの聖徒たちは神をあがめるようになる。
- ④彼らは、コリントの信者たちのために祈るとき、彼らを慕うようになる。

9. 15 節

2Co 9:15 ことばに表せないほどの賜物のゆえに、神に感謝します。

- (1) 「神のひとり子という、言い表せないほどすばらしい神様の贈り物を感謝します」(リビングバイブル)

結論：ことばに表せないほどの賜物

2Co 9:15 ことばに表せないほどの賜物のゆえに、神に感謝します。

1. 御子イエス

- (1) ヨハ 3：16

Joh 3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

2. 永遠のいのち

- (1) ロマ 5：1

Rom 5:1 こうして、私たちは信仰によって義と認められたので、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。

3. 霊的豊かさ

- (1) 2 コリ 8：9

2Co 8:9 あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるためです。

4. コリントの信者たちはパウロの勧めに従った。

- (1) ロマ 15：26

Rom 15:26 それは、マケドニアとアカイアの人々が、エルサレムの聖徒たちの中の貧しい人たちのために、喜んで援助をすることにしたからです。

コリント人への手紙第二 13 回
批判する者たちへの反論
10 : 1～18

はじめに

1. 文脈の確認

- (1) イントロダクション (1 : 1～11)
- (2) パウロを疑う者たちへの回答 (1 : 12～7 : 16)
- (3) エルサレム教会への献金 (8 : 1～9 : 15)
- (4) 使徒職を疑う者たちへの反論 (10 : 1～13 : 10)
 - ①批判する者たちへの反論 (10 : 1～18)
 - ②パウロと偽使徒の違い (11 : 1～12 : 18)
 - ③訪問を前提とした勧告 (12 : 19～13 : 10)
- (5) 最後のあいさつ (13 : 11～13)

2. 注目すべき点

- (1) パウロは、コリント教会を訪問するという前提で、この手紙を書いている。
- (2) コリント教会には、パウロの使徒職を疑う者たちがいた。
- (3) 訪問する前に、彼らの口を封じておく必要があった。

3. アウトライン

- (1) 臆病だという批判 (10 : 1～6)
- (2) 弱々しいという批判 (10 : 7～11)
- (3) 他人の成果を横取りするという批判 (10 : 12～18)

4. 結論：主に推薦される人になる

批判する者たちへの反論について学ぶ。

I. 臆病だという批判 (10 : 1～6)

1. 1 節

2Co 10:1 さて、あなたがたの間にいて顔を合わせているときはおとなしいのに、離れているとあなたがたに対して強気になる私パウロ自身が、キリストの柔和さと優しさをもってあなたがたにお願いします。

- (1) パウロはアイロニー（皮肉）を用いている。
 - ①批判者たちのことばをそのまま引用している。

- ②パウロは、直接顔を合わせているときは弱気である。
- ③離れていると、強気になる（彼が書く手紙の内容は強気である）。

(2) そのように批判されている私パウロが、あなたがたに願います。

- ①キリストの柔和さと優しさをもって、願います。
- ②通常パウロは、キリストを栄光の王として描写する。
- ③ここでは、地上生涯を歩まれたキリストの姿に言及している。

2. 2 節

2Co 10:2 私たちが肉に従って歩んでいると見なす人たちに対しては、大胆にふるまうべきだと私は考えていますが、そちらに行ったときに、その確信から強気にふるまわないですむように願います。

(1) 批判者たちは、パウロは肉に従って歩んでいると見なしていた。

- ①つまり、パウロは世の人となんら変わらないと考えていたのである。
- ②パウロは、批判者たちには大胆に振る舞うつもりでいる。
- ③しかし、コリント訪問の際には、強気にふるまわないですむように願っている。

3. 3～4 節

2Co 10:3 私たちは肉にあって歩んではいても、肉に従って戦ってはいません。

2Co 10:4 私たちの戦いの武器は肉のものではなく、神のために要塞を打ち倒す力があるものです。

(1) パウロの奉仕

- ①パウロは、肉体を持って歩んでいる。
- ②しかし、世の人たちが採用する手段や方法で戦っているわけではない。

(2) 霊の戦いのための武器

- ①全能の神への信仰
- ②祈り
- ③神のことばへの従順
- ④これらの武器は、神のために要塞を打ち倒す力がある。

4. 5 節

2Co 10:5 私たちは様々な議論と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち倒し、また、すべてののはかりごとを取り押さえて、キリストに服従させます。

(1) 要塞とは何か（4 節）。

- ①神の知識に逆らって立つ様々な議論と高ぶり
- ②科学者、進化論者、哲学者、宗教家などの議論

(2) パウロの目標

- ①神に反抗する者たちを取り押さえて、キリストに服従させること
- ②神から与えられた知性は、神を否定するためではなく、あがめるために用いる。

5. 6 節

2Co 10:6 また、あなたがたの従順が完全になったとき、あらゆる不従順を罰する用意ができています。

(1) リビングバイブル

「まず、あなたがたにこの武器を向け、キリストに従わせたあとで、残りのすべての反抗する者に挑戦するのです」

(2) 奉仕の順番

- ①霊的な武器を用いて、コリントの信者たちをキリストに従順な者にする。
- ②次に、偽教師たちを罰する。

II. 弱々しいという批判（10：7～11）

1. 7 節

2Co 10:7 あなたがたは、うわべのことだけを見えています。もし自分はキリストに属する者だと確信している人がいるなら、その人は、自分がキリストに属しているように、私たちもキリストに属しているということを、もう一度よく考えなさい。

(1) コリントの信者たちは、うわべのことだけを見ている。

- ①人を、内面ではなく、外面だけで判断している。
- ②しかし、それは間違っている。

(2) 自分だけがキリストに属していると思っているなら、それは間違いである。

- ①パウロもまたキリストに属している。
- ②つまり、使徒としての権威を行使することができるということである。

2. 8 節

2Co 10:8 あなたがたを倒すためにではなく、建てるために主が私たちに与えてくださった権威について、私が多少誇り過ぎることがあっても、恥とはならないでしょう。

(1) パウロは、自分が設立した教会に関して、主から権威が与えられている。

- ①つまり、コリント教会に関して権威を持っているということである。
- ②パウロには、その権威を誇る権利がある。

3. 9～10 節

2Co 10:9 私は、手紙であなたがたを脅しているかのように思われたくありません。

2Co 10:10 「パウロの手紙は重みがあって力強いが、実際に会ってみると弱々しく、話は大したことではない」と言う人たちがいるからです。

(1) 使徒の権威を誇ったとしても、手紙で脅しているような印象を与えたくない。

- ①もしそうなれば、彼を批判する人たちの術中にはまってしまう。
- ②パウロの権威は、コリント教会を建て上げるために与えられたものである。
- ③そしてパウロは、その目的のために権威を行使してきた。

(2) ここで批判者たちのことばが紹介される。

「パウロの手紙は重みがあって力強いが、実際に会ってみると弱々しく、話は大したことではない」

4. 11 節

2Co 10:11 そのような人は承知していなさい。私たちは、離れて書く手紙のことばどおりの者として、そちらに行ってもふるまいます。

(1) 批判する者たちへの警告

- ①コリントに行っても、手紙を書くときと同じ権威を行使する。

III. 他人の成果を横取りするという批判（10 : 12～18）

1. 12 節

2Co 10:12 私たちは、自分自身を推薦している人たちの中のだれかと、自分を同列に置いたり比較したりしようとは思いません。彼らは自分たちの間で自分自身を量ったり、互いを比較し合ったりしていますが、愚かなことです。

(1) 偽教師たちの特徴

- ①自分はすぐれた人物だと自己宣伝をし、他者を認めようとしない。
- ②自分たちの間で自分自身を量ったり、互いを比較し合ったりしている。
- ③自分の尺度だけが判断基準になっている者は、愚か者である。

(2) パウロは、偽教師たちのような行動は取らない。

- ①他人と自分を比較することはない。

2. 13～14 節

2Co 10:13 私たちは限度を超えて誇りません。神が私たちに割り当ててくださった限度の中で、あなたがたのところにまで行ったことについて、私たちは誇るのです。

2Co 10:14 私たちは、あなたがたのところに行かなかったかのようにして、無理に手を伸ばしているではありません。事実、私たちは他の人たちに先んじて、あなたがたのところにキリストの福音を携えて行ったのです。

(1) 偽教師たち（ユダヤ主義者たち）の悪癖

- ①他人が設立した教会に入り込む。
- ②他人が築いた土台の上に自分の働きを立てる。
- ③あたかも自分がその教会を設立したかのように誇る。

(2) パウロが採用した原則

- ①神が割り当ててくださった限度の中で、奉仕をする。
- ②その結果、コリントにキリストの福音を携えて行った。
- ③他人が設立した土台に手を伸ばすことはない。

3. 15～16 節

2Co 10:15 私たちは、自分の限度を超えてほかの人の労苦を誇ることはしません。ただ、あなたがたの信仰が成長し、あなたがたの間で私たちの働きが、定められた範囲の中で拡大し、あふれるほどになることを望んでいます。

2Co 10:16 それは、あなたがたより向こうの地域にまで福音を宣べ伝えるためであって、決して、ほかの人の領域ですでになされた働きを誇るためではありません。

(1) 偽教師たち（ユダヤ主義者たち）の特徴

- ①他人の労苦を自分の手柄とする。
- ②パウロの羊たちを盗もうとする。
- ③パウロの人格を汚し、パウロの教えに反することを教える。
- ④偽りの権威を行使する。

(2) パウロの願い

- ①他人の労苦を誇ることはない。
- ②コリントの信者たちの信仰が成長することを願っている。
- ③コリント教会の諸問題は、パウロの宣教活動を妨げていた。
- ④コリントの信者たちの助けがあれば、宣教の働きは拡大する。

* 「向こうの地域」とは、ギリシア西部、イタリア、スペイン。

4. 17～18 節

2Co 10:17 「誇る者は主を誇れ。」

2Co 10:18 自分自身を推薦する人ではなく、主に推薦される人こそ本物です。

(1) リビングバイブル

『『誇りたい者は、主のなさったことだけを誇れ』（エレ 9：24）と聖書にあるとおりです。自分を誇り、自分を推薦する人ではなく、主に推薦される人こそ、真に価値ある人です』

(2) パウロは、自己推薦の愚かさを知っていた。

①主に推薦される人になることを目指していた。

結論：主に推薦される人になる

1. パウロは、他人と比較するのは愚かであることを知っていた。

(1) しかし彼は、偽教師たちと自分を比較してきた。

(2) 彼は、これ自体が愚かであることを知っている。

(3) 彼がそうしたのは、コリントの信者たちの信仰を育てるためである。

(4) パウロは、コリントの信者たちを愛していた。

2. パウロは、主の裁きを予見していた。

(1) ルカ 19：16～17

Luk 19:16 最初のしもべが進み出て言った。『ご主人様、あなた様の一ミナで十ミナをもうけました。』

Luk 19:17 主人は彼に言った。『よくやった。良いしもべだ。おまえはほんの小さなことにも忠実だったから、十の町を支配する者になりなさい。』

(2) 2 コリ 5：10

2Co 5:10 私たちはみな、善であれ悪であれ、それぞれ肉体においてした行いに応じて報いを受けるために、キリストのさばきの座の前に現れなければならないのです。

①携挙に続いて、キリストの御座の裁きが行われる。

②人の評価は、なんの意味も持たない。

コリント人への手紙第二 14回
パウロと偽使徒の違い（1）
11：1～15

はじめに

1. 文脈の確認

- (1) イントロダクション（1：1～11）
- (2) パウロを疑う者たちへの回答（1：12～7：16）
- (3) エルサレム教会への献金（8：1～9：15）
- (4) 使徒職を疑う者たちへの反論（10：1～13：10）
 - ①批判する者たちへの反論（10：1～18）
 - ②パウロと偽使徒の違い（11：1～12：18）
 - *コリントの信者たちへの愛（11：1～6）
 - *無給で仕える特権（11：7～15）
 - *苦難に満ちた奉仕（11：16～33）
 - *主からの特別な啓示（12：1～10）
 - *霊の子に対する愛（12：11～18）
 - ③訪問を前提とした勧告（12：19～13：10）
- (5) 最後のあいさつ（13：11～13）

2. 注目すべき点

- (1) パウロは、コリント教会を訪問するという前提で、この手紙を書いている。
- (2) コリント教会には、パウロの使徒職を疑う者たちがいた。
- (3) 訪問する前に、彼らの口を封じておく必要があった。

3. アウトライン

- (1) コリントの信者たちへの愛（11：1～6）
- (2) 無給で仕える特権（11：7～15）

4. 結論：現代の偽教師たち

パウロと偽使徒の違いについて学ぶ。

1. コリントの信者たちへの愛（11：1～6）

1. 1節

2Co 11:1 私の少しばかりの愚かさを我慢してほしいと思います。いや、あなたがたは我慢し

ています。

「私が愚か者のように話し続けるのを我慢してください。私の心のうちを、忍耐をもって聞いてください」（リビングバイブル）

(1) 「いや、あなたがたは我慢しています」

- ①「我慢してほしい」と願う必要はなかった。
- ②パウロの敵対者たちは、自分のことを自慢し、愚かになっている。
- ③コリントの信者たちは、それを我慢して聞いている。

2. 2 節

2Co 11:2 私は神の熱心をもって、あなたがたのことを熱心に思っています。私はあなたがたを清純な処女として、一人の夫キリストに献げるために婚約させたのですから。

(1) パウロは、偽使徒たちとは異なる。

- ①神の熱心をもって、コリントの信者たちのことを熱心に思っている。
- ②コリント教会を清純な処女として、一人の夫キリストに献げようとしている。

*これは携挙のときに起こることである。

*清純な処女とは、偽りの教理によって汚されていない教会である。

3. 3 節

2Co 11:3 蛇が悪巧みによってエバを欺いたように、あなたがたの思いが汚されて、キリストに対する真心と純潔から離れてしまうのではないかと、私は心配しています。

(1) パウロは、蛇がエバを欺いたことを歴史上の出来事として引用している

- ①蛇（サタン）は悪巧みによってエバを欺いた。

(2) 偽使徒たちも同じ手法をもって、コリントの信者たちを欺こうとしている。

- ①思いが汚される。
- ②キリストに対する汚れなき献身が破壊される。
- ③これらのことをパウロは心配している。

4. 4 節

2Co 11:4 実際、だれかが来て、私たちが宣べ伝えなかった別のイエスを宣べ伝えたり、あるいは、あなたがたが受けたことのない異なる霊や、受け入れたことのない異なる福音を受けたりしても、あなたがたはよく我慢しています。

(1) 「あなたがたはよく我慢しています」とは、アイロニー（皮肉）である。

- ①偽使徒たちをすぐに受け入れるくせに、私のことは受け入れてくれない。

(2) 偽使徒たちの教え

- ①別のイエスを宣べ伝える。
- ②聖霊ではない別の霊を賦与する。
- ③異なる福音を宣べ伝える。

5. 5 節

2Co 11:5 私は、自分があの大使徒たちに少しも劣っていないと思います。

(1) 「あの大使徒たち」とは誰か（アイロニー）。

- ①偽使徒たちは、「大使徒」を自称していた。
- ②ペテロ、ヤコブ、ヨハネである可能性もある。

* 偽使徒たちは、この 3 人と交流があることを誇りとしていた。

(2) パウロは、自分はあの大使徒たちに少しも劣っていないと主張する。

- ①この聖句は、宗教改革者たちが法王権と戦う際の武器となった。
- ②カトリック教会は、法皇はペテロの首位権の継承者であると主張する。

6. 6 節

2Co 11:6 話し方は素人でも、知識においてはそうではありません。私たちはすべての点で、あらゆる場合に、そのことをあなたがたに示してきました。

(1) 弁論家としての専門的な訓練は受けていないが、聖書知識は十分持っている。

- ①コリントでの奉仕がそれを証明している。
- ②コリントの信者たちは、そのことの証人である。

II. 無給で仕える特権（11：7～15）

1. 7～8 節

2Co 11:7 それとも、あなたがたを高めるために自分を低くして、報酬を受けずに神の福音をあなたがたに宣べ伝えたことで、私は罪を犯したのでしょうか。

2Co 11:8 私は他の諸教会から奪い取って、あなたがたに仕えるための給料を得たのです。

(1) コリントの信者たちがパウロを受け入れない理由は何か。

- ①「私は罪を犯したのでしょうか」

(2) 罪の内容

- ①「あなたがたを高めるために自分を低くした」
- ②「報酬を受けずに神の福音をあなたがたに宣べ伝えた」
- ③「他の諸教会から奪い取って、あなたがたに仕えるための給料を得た」（誇張）

2. 9 節

2Co 11:9 あなたがたのところにいて困窮していたときも、私はだれにも負担をかけませんでした。マケドニアから来た兄弟たちが、私の欠乏を十分に補ってくれたからです。私は、何であれ、あなたがたの重荷にならないようにしましたし、今後もそうするつもりです。

(1) パウロは、コリント教会に金銭的負担をかけなかった。

- ①コリント滞在中に困窮したことがあったが、それを秘密にしていた。
- ②マケドニアから来た兄弟たちが、献金を届けてくれた。
- ③パウロは、あらゆることについてコリント教会の重荷にならないようにした。
- ④今後も、その方針を貫くつもりである。

3. 10～12 節

2Co 11:10 私のうちにある、キリストの真実にかけて言います。アカイア地方で私のこの誇りが封じられることはありません。

2Co 11:11 なぜでしょう。私があなたがたを愛していないからでしょうか。神はご存じです。

2Co 11:12 私は、今していることを今後も続けるつもりです。それは、ある人たちが自分たちで誇りとしていることについて、私たちと同じだと認められる機会を求めているのを断ち切るためです。

(1) 敵対者たちは、パウロがコリント教会から援助を受けないことを批判していた。

- ①使徒ではないから、受けないのだ。
- ②コリントの信者たちを愛していないから、受けないのだ。

(2) パウロの反論

- ①キリストの真実にかけて言う。
- ②アカイア地方で、この誇りが封じられることはない。
- ③これからも経済的支援を受けることはない。
- ④それは、コリントの信者たちを愛していないからではない。
- ⑤偽使徒たちは金銭的な利得なしには動かない。
- ⑥金銭的な利得なしに奉仕すれば、偽使徒たちの活動を阻止することになる。

4. 13～14 節

2Co 11:13 こういう者たちは偽使徒、人を欺く働き人であり、キリストの使徒に変装しているのです。

2Co 11:14 しかし、驚くには及びません。サタンでさえ光の御使いに変装します。

(1) パウロの怒りがほとぼしり出る。

- ①彼らは、偽使徒である。
- ②彼らは、人を欺く働き人である。
- ③彼らは、キリストの使徒に変装している。

(2) サタンは光の御使いに変装する。

- ①サタンは、醜い姿で登場するのではない。
- ②偽使徒たちは、サタンの手下どもである。

6. 15 節

2Co 11:15 ですから、サタンのしもべどもが義のしもべに変装したとしても、大したことではありません。彼らの最後は、その行いにふさわしいものとなるでしょう。

(1) サタンのしもべどもは、サタンの策略（変装）を採用する。

- ①彼らは、「義のしもべ」に変装する。
- ②彼らの最後は、永遠の滅びである。

結論：現代の偽教師たち

1. パウロの怒りがほとばしり出る。

- (1) 偽使徒たちをどう評価するかは、生死を決するテーマである。
- (2) パウロの怒りは、愛から出たものである。
- (3) 偽使徒たちに関する教えは、そのまま現代の偽教師たちに当てはまる。

2. サタンは光の御使いに変装する。

- (1) サタンは、醜い姿で登場するのではない。
- (2) 偽教師たちは、サタンの手下どもである。
- (3) 偽教師たちは、義のしもべに変装する。

3. 現代の偽教師たちの特徴

- (1) 偽教師である。
 - ①キリストから任命を受けていない。
 - ②彼らが受けているのは、人間からの任命である（自己推薦も含めて）。
- (2) 人を欺く働き人である。
 - ①偽りの教理を教える。
 - ②教会を渡り歩き、支援者を自分のもとに集める。
- (3) 義のしもべに変装している。
 - ①その実態に力はない。

- ②変装が力の源である。
- ③「サタンは、聖書を手にしたとき、最もサタンの的になる」(JN ダービー)
- ④偽教師たちは、宗教的な装いをし、豪華な講壇に立つ。
- ⑤儀式による救いやわざによる救いを説く者は、偽教師である。
- ⑥「義のしもべ」が語る福音は、聴く人の生死を決する。

コリント人への手紙第二 15 回

パウロと偽使徒の違い（2）

－苦難に満ちた奉仕－

11：16～33

はじめに

1. 文脈の確認

- （1）イントロダクション（1：1～11）
- （2）パウロを疑う者たちへの回答（1：12～7：16）
- （3）エルサレム教会への献金（8：1～9：15）
- （4）使徒職を疑う者たちへの反論（10：1～13：10）
 - ①批判する者たちへの反論（10：1～18）
 - ②パウロと偽使徒の違い（11：1～12：18）
 - *コリントの信者たちへの愛（11：1～6）
 - *無給で仕える特権（11：7～15）
 - *苦難に満ちた奉仕（11：16～33）
 - *主からの特別な啓示（12：1～10）
 - *霊の子に対する愛（12：11～18）
 - ③訪問を前提とした勧告（12：19～13：10）
- （5）最後のあいさつ（13：11～13）

2. 注目すべき点

- （1）パウロは、コリント教会を訪問するという前提で、この手紙を書いている。
- （2）コリント教会には、パウロの使徒職を疑う者たちがいた。
- （3）訪問する前に、彼らの口を封じておく必要があった。
- （4）彼は、使徒として体験した苦難に言及する。

3. アウトライン

- （1）苦難に満ちた奉仕（11：16～33）

4. 結論：苦難の内容

パウロが使徒として経験した苦難について学ぶ。

I. 苦難に満ちた奉仕（11：16～33）

1. 16 節

2Co 11:16 もう一度言いますが、だれも私を愚かだと思わないでください。もし愚かだと思ふなら、愚か者として受け入れてください。そうすれば、私も少しばかり誇ることができます。

「もう一度くり返しますが、こんなことを言う私が、理性を失ったなどとは思わないでください。しかしまた、それならそれで、『理性を失った愚か者』のことばに、とにかく耳を傾けてください。あの人たちがみたいに、私も少しばかり誇ってみせます」（リビングバイブル）

(1) この聖句は、偽使徒たちに対抗するものである。

- ①偽使徒たちは、自慢話をしていた。
- ②パウロは、コリントの信者たちから「愚か者」だと思われたくはなかった。
- ③しかし、「愚か者」だと思われるなら、少しばかり誇ることにする。

2. 17～18 節

2Co 11:17 これから話すことは、主によって話すのではなく、愚か者として、自慢できると確信して話します。

2Co 11:18 多くの人が肉によって誇っているので、私も誇ることにします。

(1) 自慢話をする理由

- ①これは主の導きによるものではない。
- ②主イエスは、常に謙遜で、自分を誇ったことはない。
- ③パウロは、嫌々ながら愚か者として、自分のことを自慢する。
- ④目的は、パウロが使徒であることをコリントの信者たちに教えるためである。

(2) 偽使徒たちは、肉（墮落した性質）によって誇っている。

- ①それゆえ、パウロもまた誇ることにする。
- ②彼は、自分を誇るのは愚かであり、主イエスのようでないことを知っている。

3. 19～20 節

2Co 11:19 あなたがたは賢いので、喜んで愚か者たちを我慢してくれるからです。

2Co 11:20 実際あなたがたは、だれかに奴隷にされても、食い尽くされても、強奪されても、いばられても、顔をたたかれても、我慢しています。

(1) 皮肉（アイロニー）が用いられる。

- ①あなたがたは賢い（本当は愚か）。
- ②あなたがたは、喜んで愚か者たちの自慢話に耳を傾けている。
- ③それなら、愚か者になって語る私の自慢話にも耳を傾けてくれるはずである。

(2) 彼らは、偽使徒やユダヤ主義者の仕打ちを我慢している。

①奴隷にされている（律法の束縛）。

*使 15：10

Act 15:10 そうであるなら、なぜ今あなたがたは、私たちの先祖たちも私たちも負いきれなかったくびきを、あの弟子たちの首に掛けて、神を試みるのですか。

②食い尽くされている。

*偽使徒たちの奉仕の目的は、利得である。

③強奪されている。

*英語で「one takes from you」は、狩りや漁の比喩である。

④いばり散らされている。

*疑問や反論は許されない。

⑤顔をたたかれる（字義どおりの解釈）。

*侮辱的行為のクライマックスである。

4. 21 節

2Co 11:21 言うのも恥ずかしいことですが、私たちは弱かったのです。何であれ、だれかがあえて誇るのなら、私は愚かになって言いますが、私もあえて誇りましょう。

(1) パウロは、「私たちは弱かったのです」と告白する。

①つまり、偽使徒たちのように強気に振る舞うことはなかったということ。

②しかし、愚かになる決心をした今は、自分のことを多いに誇ることにする。

(2) パウロは、使徒の証明を列挙する。

①神学校の卒業証書ではない。

②他の使徒たちからの推薦状でもない。

③自分の能力や成果でもない。

④証拠とは、彼が経験した試練の数々である。

⑤これ以降の箇所は、コリント人への手紙第二だけに見られる特徴である。

⑥この箇所は、涙なしには読めないものである。

5. 22 節

2Co 11:22 彼らはヘブル人ですか。私もそうです。彼らはイスラエル人ですか。私もそうです。彼らはアブラハムの子孫ですか。私もそうです。

(1) 偽使徒たちは自らの家系を誇っていた。

①ヘブル人である。

*ヘブル語を母国語とするパレスチナ出身のユダヤ人

②イスラエル人である。

*契約の民の一員

③アブラハムの子孫である。

*アブラハムと血のつながりがある。

(2) これに関しては、パウロに劣っている点はなかった。

①パウロは、人は家系によって救われるのではないことを知っていた。

6. 23～25 節

2Co 11:23 彼らはキリストのしもべですか。私は狂気したように言いますが、私は彼ら以上にそうです。労苦したことはずっと多く、牢に入れられたこともずっと多く、むち打たれたことははるかに多く、死に直面したこともたびたびありました。

2Co 11:24 ユダヤ人から四十に一つ足りないむちを受けたことが五度、

2Co 11:25 ローマ人にむちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度、一昼夜、海上を漂ったこともあります。

(1) パウロにとっては、苦難が使徒の証拠である。

①使徒は、受難のしもべである主イエスの弟子である。

②弟子は、師以上にはならない。

③主イエスに仕えれば仕えるほど、人からの攻撃に遭う。

④偽使徒たちは苦難の道ではなく、安易な道を選んでいる。

(2) 苦難の内容は結論で確認する。

7. 26～27 節

2Co 11:26 何度も旅をし、川の難、盗賊の難、同胞から受ける難、異邦人から受ける難、町での難、荒野での難、海上の難、偽兄弟による難にあり、

2Co 11:27 労し苦しみ、たびたび眠らずに過ごし、飢え渴き、しばしば食べ物もなく、寒さの中に裸でいたこともありました。

(1) パウロの 3 度にわたる宣教旅行は、広範囲の地域をカバーした。

8. 28～29 節

2Co 11:28 ほかにもいろいろなことがあります、さらに、日々私に重荷となっている、すべての教会への心づかいがあります。

2Co 11:29 だれかが弱くなっているときに、私は弱くならないでしょうか。だれかがつまづいていて、私は心が激しく痛まないでしょうか。

(1) パウロの苦難のリストの最後

- ①すべての教会への心づかい
- ②日々パウロに重荷となっている。
- ③パウロは、真の牧会者である。

(2) 重荷の内容

- ①兄弟が弱くなっていると聞いたなら、自分も弱くなる。
- ②誰かがつまづいたなら、心が激しく痛む。

9. 30～31 節

2Co 11:30 もし誇る必要があるなら、私は自分の弱さのことを誇ります。

2Co 11:31 主イエスの父である神、とこしえにほめたたえられる方は、私が偽りを言っていないことをご存じです。

(1) パウロが誇りとするもの

- ①成功、能力、賜物などではない。
- ②自分の弱さ、苦難、屈辱などを誇る。

(2) 主イエスの父である神は、パウロが偽りを言っていないことをご存じである。

- ①ここでパウロは、自分が経験した屈辱的なエピソードを紹介する。

10. 32～33 節

2Co 11:32 ダマスコでアレタ王の代官が、私を捕らえようとしてダマスコの人たちの町を見張りましたが、

2Co 11:33 私は窓からかごで城壁伝いにつり降ろされ、彼の手を逃れたのでした。

(1) 使 9：19～25

- ①パウロは、回心直後からダマスコで伝道を開始した。
- ②ユダヤ人たちはアレタ王の代官を説き伏せて、パウロを逮捕しようとした。
- ③パウロは、兄弟たちによって窓から町の外につり降ろされた。
- ④この出来事は、パウロが使徒として召された証拠である。

結論：苦難の内容

1. パウロは第 3 次伝道旅行の途上にある。

- (1) パウロの苦難はまだ続いている。
- (2) パウロは、苦難が使徒であることの証拠だと主張する。
- (3) この箇所は、成功したミニストリーの定義の変更を迫る。

2. 苦難の内容

(1) 6 つの苦難（23～26 節）

① 労苦

* キリストを伝えるために地中海地区を旅行した。

② 投獄

* ピリピでの投獄（使 16：23）

* 投獄は 1 度だけではなかった。

③ むち打ち

* ユダヤ人から四十に一つ足りないむちを 5 度受けた。

・ 申 25：3 は 40 回まで打つことを許可していた。

・ パウロは、重大な罪人とみなされた。

* ローマ人から 3 度むちを受けた。

・ ピリピでの出来事（使 16：22）以外に、2 度むちを受けた。

④ 石打

* リステラでの出来事（使 14：19）

・ パウロは死んだと判断され、その体は町から運び出された。

⑤ 難船

* 自然の脅威にも襲われた。

* 3 度の難船を経験した。

* ローマに上る途上の難船は、まだ起こっていない（使 27）。

⑥ 一昼夜海上を漂う。

* 聖書に記録がない。

(2) 13 の苦難（26～27 節）

① 川の難

* 川の氾濫

② 盗賊の難

* 彼が移動したルートには、無法者たちが潜んでいた。

③ 同胞から受ける難

* ユダヤ人から受ける迫害

④ 異邦人から受ける難

* 福音に敵対する者から受ける迫害

⑤ 町での難

* リステラ、ピリピ、コリント、エペソ

⑥ 荒野での難

*小アジアやヨーロッパの人口の少ない地域

⑦海上での難

*嵐、暗礁、海賊

⑧偽兄弟による難

*異なった福音を伝えるユダヤ主義者たち

⑨勞し苦しみ

*休む間もない奉仕とそれに伴う苦難

⑩眠らずに過ごし

*野宿の際には眠ることができなかった。

⑪飢え渴き

*食物と水不足

⑫食べ物もなく

*自発的な断食ではなく、強制された断食である。

⑬寒さの中で裸でいた。

*急激な気候の変化に対応できなかった。

(3) クライマックスとなる苦難

⑬2 コリ 11：28

2Co 11:28 ほかにいろいろなことがあります、さらに、日々私に重荷となっている、すべての教会への心づかいがあります。

コリント人への手紙第二 16回

パウロと偽使徒の違い（3）

－使徒のしるし－

12：1～18

はじめに

1. 文脈の確認

- (1) イントロダクション（1：1～11）
- (2) パウロを疑う者たちへの回答（1：12～7：16）
- (3) エルサレム教会への献金（8：1～9：15）
- (4) 使徒職を疑う者たちへの反論（10：1～13：10）
 - ①批判する者たちへの反論（10：1～18）
 - ②パウロと偽使徒の違い（11：1～12：18）
 - *コリントの信者たちへの愛（11：1～6）
 - *無給で仕える特権（11：7～15）
 - *苦難に満ちた奉仕（11：16～33）
 - *主からの特別な啓示（12：1～10）
 - *霊の子に対する愛（12：11～18）
 - ③訪問を前提とした勧告（12：19～13：10）
- (5) 最後のあいさつ（13：11～13）

2. 注目すべき点

- (1) パウロは、コリント教会を訪問するという前提で、この手紙を書いている。
- (2) コリント教会には、パウロの使徒職を疑う者たちがいた。
- (3) パウロは、無給で仕えることと数々の苦難は、使徒職の証拠であると論じた。
- (4) この箇所では、主からの啓示と主の恵みについて論じる。

3. アウトライン：使徒のしるし

- (1) 主からの特別な啓示（12：1～10）
- (2) 霊の子に対する愛（12：11～18）

4. 結論：パウロの体験の適用

パウロが使徒として受けた啓示と恵みについて学ぶ。

I. 主からの特別な啓示（12：1～10）

1. 1 節

2Co 12:1 私は誇らずにはいられません。誇っても無益ですが、主の幻と啓示の話に入りましょう。

(1) 誇っても無益であるが、コリント教会の現状を考えると、誇る必要がある。

①パウロは、最も屈辱的な体験（苦難）について語った。

②今から、最も栄光に富んだ体験（主の幻と啓示）について語る。

2. 2～4 節

2Co 12:2 私はキリストにある一人の人を知っています。この人は十四年前に、第三の天にまで引き上げられました。肉体のままであったのか、私は知りません。肉体を離れてであったのか、それも知りません。神がご存じです。

2Co 12:3 私はこのような人を知っています。肉体のままであったのか、肉体を離れてであったのか、私は知りません。神がご存じです。

2Co 12:4 彼はパラダイスに引き上げられて、言い表すこともできない、人間が語ることを許されていないことばを聞きました。

(1) 「キリストにある一人の人」とは、パウロ自身のことである。

①パウロは 14 年前に第三の天にまで引き上げられた。

②生きたままなのか、死んだ状態でなのか、パウロは知らない。

③このような素晴らしい体験をした理由は、「キリストにある」という点にある。

*パウロが素晴らしいからではない。

*名前を伏せている理由は、限度を超えて誇らないためである。

(2) 「第三の天にまで引き上げられた」

①第一の天は大空、第二の天は宇宙空間。

②第三の天は、パラダイスである（ルカ 23：43、黙 2：7）。

*第三の天は、復活のキリストがおられる場所である。

(3) 「人間が語ることを許されていないことばを聞いた」

①彼がパラダイスで聞いたのは、人間が語ることを許されていないことばである。

②パウロは、その内容がなんであるかについて沈黙している。

③しかし、その体験は彼の信仰を強くした。

3. 5～6 節

2Co 12:5 このような人のことを私は誇ります。しかし、私自身については、弱さ以外は誇りません。

2Co 12:6 たとえ私が誇りたいと思ったとしても、愚か者とはならないでしょう。本当のことを語るからです。しかし、その啓示があまりにも素晴らしいために、私について見ることに、私から聞くこと以上に、だれかが私を過大に評価するといけないので、私は誇ることを控えましょう。

(1) パウロが自分の名を出さない理由

- ①苦難の話をするときは、自分の弱さを誇る。
- ②啓示の話をするときは、控えめに語る。
- ③啓示があまりにも素晴らしいので、実際の自分以上に評価される危険性がある。

4. 7 節

2Co 12:7 その啓示のすばらしさのため高慢にならないように、私は肉体に一つのとげを与えられました。それは私が高慢にならないように、私を打つためのサタンの使いです。

(1) 高慢にならないように、「肉体に一つのとげ」を与えられた。

- ①恐らくなんらかの病であろう。
- ②具体的に啓示されていないことに意味がある。普遍的な適用が可能になる。
- ③悪魔は、パウロの奉仕を妨害しようとして使いを送ってくる。
- ④神は、その妨害を用いてパウロの奉仕をより有効なものとする。

5. 8 節

2Co 12:8 この使いについて、私から去らせてくださるようにと、私は三度、主に願いました。

(1) パウロは、この使いを去らせてくださるようにと、3 度祈った。

- ①苦痛の激しさを示している。
- ②主イエスのゲツセマネの園での 3 度の祈りを想起させる。

6. 9～10 節

2Co 12:9 しかし主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」と言われました。ですから私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。

2Co 12:10 ですから私は、キリストのゆえに、弱さ、侮辱、苦悩、迫害、困難を喜んでいます。というのは、私が弱いときにこそ、私は強いからです。

(1) 主は、パウロの願いには応えず、それとは別のものを約束された。

- ①力ではなく、苦難に耐えるための恵みを約束された。
- ②弱いパウロが福音を語る時、主の恵みが働いて、力強い奉仕が可能となる。

(2) パウロの視点は変わった。

- ①弱さ、侮辱、苦悩、迫害、困難を喜んでいる。
- ②キリストのゆえに（キリストの栄光のために）
- ③弱いときにこそ、強い（より主に信頼するようになる）。

II. 霊の子に対する愛（12：11～18）

1. 11 節

2Co 12:11 私は愚か者になってしまいました。あなたがたが無理に私をそうさせたのです。私は当然、あなたがたの推薦を受けてよかったはずです。私は、たとえ取るに足りない者であっても、あの大使徒たちに少しも劣るところはなかったのですから。

(1) パウロは、自慢することに嫌気が差している。

- ①自慢したいからそうしたのでなく、コリントの信者たちがそうさせたのである。
- ②彼らは、パウロが非難されたとき、彼を弁護すべきであった。
- ③パウロは、自分は「あの大使徒たち」に少しも劣るところはないと感じている。
- ④「あの大使徒たち」とは、ここでは 12 使徒のことであろう。

2. 12 節

2Co 12:12 私は忍耐を尽くして、あなたがたの間で使徒としてのしるしを明らかにしました。しるしと不思議と力あるわざによってです。

(1) 訳文の比較

「使徒としてのしるしは、忍耐を尽くしてあなたがたの間でなされた、しるしと不思議な業と奇跡です」（共同訳）

- ①原文では、「しるしと不思議な業と奇跡」は「なされた」という受動態である。
- ②それをなしたのはパウロではなく、主である。
- ③主は、奇跡を通してパウロが使徒として召されていることを証明された。

(2) 「しるしと不思議と力あるわざ」

- ①使徒職を証明する奇跡である。
- ②3 種類の奇跡があるというわけではない。
 - *しるしは、人間の理性にある情報を伝達するものである。
 - *不思議は、人間の感情をかき立てるものである。
 - *力あるわざは、人間を越えた力が働いたことを示すものである。
- ③パウロがコリントで奇跡を行ったという記録はないが、これは事実である。

3. 13 節

2Co 12:13 あなたがたが他の諸教会より劣っている点は何でしょうか。この私が、あなたがたに負担をかけなかったことだけではありませんか。この不正のことは赦してください。

- (1) 奇跡に関しては、コリント教会は他の諸教会に劣っているわけではない。
 - ①コリント教会になかったのは、パウロを経済的に支えることだけである。
 - ②経済的支援を受けるのは、使徒のしるしである。
 - ③「この不公平については、どうか赦してください」（リビングバイブル）
- * この表現は、皮肉（アイロニー）である。

4. 14 節

2Co 12:14 見なさい。私は、あなたがたのところに三度目の訪問をする準備ができていますが、あなたがたに負担はかけません。私が求めているのは、あなたがたが持っている物ではなく、あなたがた自身なのです。子が親のために蓄える必要はなく、親が子のために蓄えるべきです。

- (1) パウロはコリント教会を訪問することを計画している。
 - ①彼らに経済的負担をかけるつもりはない。
 - ②パウロは、物よりも人に興味がある。
- (2) 「子が親のために蓄える必要はなく、親が子のために蓄えるべきです」
「小さな子どもは親を食べさせる必要はありません。その逆です。親が子どもを食べさせるのです」（リビングバイブル）
 - ①この聖句は、日常生活における親子の関係への言及である。
 - ②親には子どもに対する扶養義務がある。

5. 15 節

2Co 12:15 私は、あなたがたのたましいのために、大いに喜んで財を費やし、自分自身を使い尽くしましょう。私があなたがたを愛すれば愛するほど、私はますます愛されなくなるのでしょうか。

- (1) パウロの決意
 - ①パウロは、コリントの信者たちのために、財も自分自身も費やすつもりである。
 - ②彼らが愛によって応答しなくても、愛を示すつもりである。

6. 16～18 節

2Co 12:16 それならそれでよいとして、私はあなたがたに重荷を負わせませんでした。それでも私は、悪賢くて、あなたがたからだまし取ったと言われます。

2Co 12:17 私はあなたがたのところに人を遣わしましたが、そのうちのだれかによって、あな

たがたをだますことがあったでしょうか。

2Co 12:18 私はテトスにそちらに行くように頼み、あの兄弟もともに遣わしました。テトスはあなたがたをだましたでしょうか。私たちは同じ心で歩んだではありませんか。同じ足跡をたどったではありませんか。

(1) パウロは、派遣した者たちを通してだまし取っていると批判されていた。

①パウロが派遣した者たちの中に、だまし取るような人がいただろうか。

(2) この問いに、パウロ自らが答える。

①テトスと別の兄弟がコリントを訪問した。

②テトスは、パウロと同じ足跡をたどった。

* 自給伝道に励んだ。

結論：キリストのしもべの体験

1. 谷底から高嶺に、高嶺から谷底に

(1) パウロは、自らが体験した苦難に言及した。

①自らを誇ることは、愚かなことである。

②しかし、コリントの信者に分からせるためにこのことが必要であった。

③苦難は、使徒として召されたことの証拠である。

④ミニストリーの評価を再吟味すべきである。

(2) パウロは、自らが体験した特権に言及した。

①第三の天に引き上げられ、主から啓示を受けた。

②あまりにも厳粛なので、語ることを許されていない。

③特別な啓示は、使徒として召されたことの証拠である。

(3) キリストのしもべには、試練と祝福が交互にやってくる。

2. 高嶺体験の後に続く試練

(1) その啓示のすばらしさのゆえに、パウロは肉体に一つのとげを与えられた。

①高慢にならないようにするためのサタンの使いである。

(2) サタンの使いが去ることはないが、それ以上の恵みを与えられる。

①試練に耐える力と福音伝達にともなう力

3. 霊的に成熟したしもべの視点

(1) 弱さ、侮辱、苦悩、迫害、困難を喜ぶようになる。

(2) キリストの栄光がミニストリーのゴールになる。

(3) 弱いときにこそ、強いという確信を得る（より主に信頼するようになる）。

コリント人への手紙第二 17回

訪問を前提とした勧告

12：19～13：10

はじめに

1. 文脈の確認

- (1) イントロダクション（1：1～11）
- (2) パウロを疑う者たちへの回答（1：12～7：16）
- (3) エルサレム教会への献金（8：1～9：15）
- (4) 使徒職を疑う者たちへの反論（10：1～13：10）
 - ①批判する者たちへの反論（10：1～18）
 - ②パウロと偽使徒の違い（11：1～12：18）
 - ③訪問を前提とした勧告（12：19～13：10）
- (5) 最後のあいさつ（13：11～13）

2. 注目すべき点

- (1) パウロには、近々コリント教会を訪問する計画がある。
- (2) そのときに、コリントの信者たちを辱めるようなことはしたくない。
- (3) それを防ぐために、彼が感じている心配を分かち合う。

3. アウトライン

- (1) パウロの心配（12：19～21）
- (2) パウロの警告（13：1～6）
- (3) パウロの願い（13：7～10）

4. 結論：「自分自身を吟味する」の意味

パウロの心配、警告、願いについて学ぶ。

I. パウロの心配（12：19～21）

1. 19 節

2Co 12:19 あなたがたは、私たちがあなたがたに対して自己弁護をしているのだと、前からずっと思っていましたか。私たちは神の御前で、キリストにあって語っているのです。愛する者たち、すべてはあなたがたが成長するためなのです。

- (1) パウロは、自己弁護をしているわけではない。

- ①コリントの信者たちは、以前から彼を誤解をしていた。

(2) パウロがこのように書くのは、彼らの霊的成長を助けるためである。

- ①パウロは、神の御前で語っている。
- ②パウロは、キリストにあって語っている（書いている）。
- ③パウロの動機は、愛である。

2. 20 節

2Co 12:20 私は心配をしています。そちらに行ってみると、あなたがたは私が期待したような人たちでなく、私もあなたがたが期待したような者でなかった、ということにならないでしょうか。争い、ねたみ、憤り、党派心、悪口、陰口、高ぶり、混乱がありはしないでしょうか。

(1) パウロは、期待しながらコリント教会を訪問したいと願っている。

- ①信者同士の間に愛の一致がある。
- ②偽教師たちが追放されている。
- ③パウロの使徒的権威が認められている。

(2) パウロは、期待外れのことが起こることを心配している。

- ①争い、ねたみ、憤り、党派心、悪口、陰口、高ぶり、混乱
- ②お互いがお互いにとって、期待外れとなる。

3. 21 節

2Co 12:21 私が再びそちらに行くとき、私の神があなたがたの前で、私を恥じ入らせるのではないのでしょうか。そして、以前に罪を犯していながら、犯した汚れと淫らな行いと好色を悔い改めない多くの人たちのことを、私は嘆くことにならないのでしょうか。

(1) パウロの心配が続く。

- ①パウロの誇りである彼らが、期待どおりの姿になっていない可能性がある。
- ②その場合、神がパウロを恥じ入らせることになる。
- ③悔い改めない多くの人たちのことを、パウロは嘆くことになる。

*汚れと淫らな行いと好色の罪

*彼らは、救われていない人たちである。

④1 コリ 6：9～10

1Co 6:9 あなたがたは知らないのですか。正しくない者は神の国を相続できません。思い違いをしてはいけません。淫らな行いをする者、偶像を拝む者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者、

1Co 6:10 盗む者、貪欲な者、酒におぼれる者、そしる者、奪い取る者はみな、神の国を相続

することができません。

⑤悔い改めない人たちは、教会から除名処分を受けることになる。

II. パウロの警告（13：1～6）

1. 1 節

2Co 13:1 私があなたがたのところに行くのは、これで三度目です。二人または三人の証人の証言によって、すべてのことは立証されなければなりません。

(1) パウロは、3 度目のコリント訪問の際に行われるべきことを示す。

①申 19：15 の原則

Deu 19:15 いかなる咎でも、いかなる罪でも、すべて人が犯した罪過は、一人の証人によって立証されてはならない。二人の証人の証言、または三人の証人の証言によって、そのことは立証されなければならない。

②この原則は、主イエスの教え（マタ 18：15～20）と調和する。

③罪を犯している人たちを裁くのは、コリント教会の責務である。

④パウロの役割は、助言者としてのそれである。

2. 2 節

2Co 13:2 以前に罪を犯した人たちとほかの人たち全員に、私は二度目の滞在のとき、前もって言うておきましたが、こうして離れている今も、あらかじめ言うておきます。今度そちらに行ったときには、容赦しません。

(1) 2 度目の訪問時に、パウロは厳しく警告しておいた。

①悔い改めない罪人たちを厳しく処分する。

②離れている今も、厳しく警告する。

③3 度目の訪問時には、容赦しない。

3. 3 節

2Co 13:3 こう言うのは、キリストが私によって語っておられるという証拠を、あなたがたが求めているからです。キリストはあなたがたに対して弱い方ではなく、あなたがたの間であって力ある方です。

(1) コリントの信者たちは、偽教師たちに騙されていた。

①その結果、パウロの使徒性を疑うようになった。

②キリストがパウロによって語っておられるという証拠を求めるようになった。

(2) パウロは、彼らの疑問に答える。

①パウロが語る福音を信じた人は、劇的な変化を体験した。

- ②その体験は、キリストによって与えられたものである。
- ③キリストは、弱い方ではなく、彼らの間にあって力ある方である。

4. 4 節

2Co 13:4 キリストは弱さのゆえに十字架につけられましたが、神の力によって生きておられます。私たちもキリストにあって弱い者ですが、あなたがたに対しては、神の力によってキリストとともに生きるのです。

- (1) 弱いときに強いというのは、クリスチャンのパラドックスである。
 - ①これは、キリストの内にも見られるパラドックスである。
 - *キリストは、弱さのゆえに十字架につけられた。
 - *しかし、神の力によって復活された。
 - ②キリストのしもべも同じパラドックスを経験する。
 - *パウロは、キリストにあって弱い者である。
 - *しかし、彼らに対しては、神の力によってキリストとともに生きる。
 - ・復活のことではなく、権威ある裁きのことである。

5. 5～6 節

2Co 13:5 あなたがたは、信仰に生きているかどうか、自分自身を試し、吟味しなさい。それとも、あなたがたは自分自身のことを、自分のうちにイエス・キリストがおられることを、自覚していないのですか。あなたがたが不適格な者なら別ですが。

2Co 13:6 しかし、私たちは不適格でないことが、あなたがたに分かるように、私は望んでいます。

- (1) パウロが使徒であることの証拠は、彼ら自身の救いである。
 - ①「自分自身を吟味しなさい」とは、救われているかどうかの確認ではない。
 - ②救われているなら、イエス・キリストがうちにおられる。
 - ③イエス・キリストがうちにおられないなら、救われていない（不適格な者）。
 - ④彼らが救われているという事実は、パウロの使徒性を証明している。
 - ⑤つまり、パウロは使徒として不適格ではないということである。

III. パウロの願い (13 : 7～10)

1. 7～8 節

2Co 13:7 私たちは、あなたがたがどんな悪も行うことのないように、神に祈っています。それは、私たちが適格であることを明らかにしたいからではなく、私たちが不適格な者のように見えたとしても、あなたがたに善を行ってもらいたいからです。

2Co 13:8 私たちは、真理に逆らっては何もすることができませんが、真理のためならできま

す。

(1) パウロの祈りの内容は、利己的なものではない。

- ①パウロは、自分が適格であることを証明したいわけではない。
- ②自分が不適格な者のように見えたとしても、彼らには善を行ってもらいたい。
- ③パウロは、使徒の権威を用いて彼らを服従させたいわけではない。
- ④彼らが自発的に悪から遠ざかるように祈っている。

(2) パウロの奉仕は、神の真理を広めるためのものである。

「私たちの務めは、いついかなる時にも、正しいことを勧めることであって、悪を望むことはありません」(リビングバイブル)

2. 9～10節

2Co 13:9 私たちは、自分は弱くても、あなたがたが強ければ喜びます。あなたがたが完全な者になること、このことも私たちは祈っています。

2Co 13:10 そういうわけで、離れていてこれらのことを書いているのは、私が行ったときに、主が私に授けてくださった権威を用いて、厳しい処置をとらなくてもすむようになるためです。この権威が私に与えられたのは、建てるためであって、倒すためではありません。

(1) パウロの無私の祈り

- ①自分は弱くても、それが彼らの強さにつながるなら喜ぶ。
- ②彼らが、罪や分派から離れ、完全な者になることを祈っている。

(2) 使徒としての権威

- ①それは主がパウロに授けてくださったものである。
- ②その権威を、離れいる今行使している。
- ③訪問した際に、厳しい処置をとらなくてもすむようにこの手紙を書いている。
- ④この権威が与えられている理由は、建てるためであって、倒すためではない。

結論：「自分自身を吟味する」の意味

1. 内省による救いの確認

(1) 2コリ 13：5

2Co 13:5 あなたがたは、信仰に生きているかどうか、自分自身を試し、吟味しなさい。それとも、あなたがたは自分自身のことを、自分のうちにイエス・キリストがおられることを、自覚していないのですか。あなたがたが不適格な者なら別ですが。

(2) これはよく誤解される聖句である。

- ①内省によって救いの確信を得ようとする、必ず失敗する。

- ②私たちは聖化の途上にある。
- ③ロマ書 7 章クリスチャンになる恐れがある。
- (3) この聖句は、文脈を考慮に入れながら解釈する必要がある。
 - ①コリントの信者たちは、イエス・キリストの内住を経験するようになった。
 - ②このことは、パウロの使徒性の証拠である。

2. みことばによる救いの確信

- (1) みことばは、救いは恵みと信仰によると教えている。
- (2) 救いの確信は、みことばの権威によって与えられる。
 - ①キリストを救い主として受け入れた瞬間、その人は新生する。
 - ②みことばの権威によって、新生したことが保証されている。。
- (3) 新生の後に聖化という長いプロセスが始まる。
 - ①聖化によって、新生したという確信が深められていく。
 - ②世界観、願い、楽しみ、価値観、霊的関心などが大きく変化する。

コリント人への手紙第二 18 回

最後のあいさつ

13 : 11～13

はじめに

1. 文脈の確認

- (1) イントロダクション (1 : 1～11)
- (2) パウロを疑う者たちへの回答 (1 : 12～7 : 16)
- (3) エルサレム教会への献金 (8 : 1～9 : 15)
- (4) 使徒職を疑う者たちへの反論 (10 : 1～13 : 10)
- (5) 最後のあいさつ (13 : 11～13)

2. 注目すべき点

- (1) この手紙は、奨励、あいさつ、祝祷で終わる。
- (2) 一致の重要性を読者に印象づけるためである。
- (3) この手紙は功を奏した。
 - ①パウロはコリント滞在の 3 か月間でローマ人への手紙を書いた。

3. アウトライン

- (1) 勧告 (11 節)
- (2) あいさつ (12 節)
- (3) 祝祷 (13 節)

4. 結論：コリント人への手紙第二 13 章 13 節

勧告、あいさつ、祝祷について学ぶ。

I. 勧告 (11 節)

1. 11 節

2Co 13:11 最後に兄弟たち、喜びなさい。完全になりなさい。慰めを受けなさい。思いを一つにきなさい。平和を保ちなさい。そうすれば、愛と平和の神はあなたがたとともにいてくださいます。

(1) 5 つの勧告

①「喜びなさい」

* 主の裁きを受ける前に、自分たちで自分たちを裁くことができる。

* 主にあって喜ぶのは、クリスチャンの特権である。

②「完全になりなさい」

*「カタルティゾウ」という動詞には、網を繕うという意味がある。

*マタ 4 : 21

Mat 4:21 イエスはそこから進んで行き、別の二人の兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、父ゼベダイと一緒に舟の中で網を繕っているのを見ると、二人をお呼びになった。

*ここでは、自分の道を修復するという意味である。

③「慰めを受けなさい」

*パウロから受けた教えを受け入れ、実行に移すべきである。

*それが慰めを受けることにつながる。

④「思いを一つにきなさい」

*キリストの思いを持つことが、一つの思いになる道である。

*キリストが考えるように考え、キリストが行動するように行動する。

⑤「平和を保ちなさい」

*偽教師（律法主義）が入り込んでくると、対立が起こる。

*罪を犯している者を懲戒し、キリストにある兄弟たちと調和して生きる。

(2) 一つの祝福

①「そうすれば、愛と平和の神はあなたがたとともにいてくださいます」

*ある意味では、神はいかなるときにも私たちとともにいてくださる。

*しかし、御心に適う歩みをするなら、神をより近くに感じるようになる。

II. あいさつ (12 節)

1. 12 節

2Co 13:12 聖なる口づけをもって互いにあいさつを交わしなさい。すべての聖徒たちが、あなたがたによろしくと言っています。

(1)「聖なる口づけをもって互いにあいさつを交わしなさい」

①当時は、男性の信者同士が口づけをもって互いにあいさつを交わした。

②今でも、その習慣が生きている文化圏がある。

③これは「聖なる口づけ」である。

④しかし、この行為が誤解を生む文化圏もある。

⑤その場合は、「聖なる握手」が用いられる。

⑥文化的に容認される方法を用いて、真実なあいさつを交わすということである。

(2) 「すべての聖徒たちが、あなたがたによろしくと言っています」

①聖徒の交わりの広がりについて教えている。

②諸教会がコリント教会の成長に関心を寄せていることを教えている。

III. 祝祷（13 節）

1. 13 節

2Co 13:13 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにありますように。

(1) これは、大いなる祝祷（神の祝福を祈る祈り）である。

①新約聖書の中で、三位一体の三位格がすべて登場する祝祷はこれだけである。

*三位一体という用語は聖書にないが、その概念はある。

②この聖句は、パウロ書簡の中で最も多く引用されるものである。

③「キリストの恵み」、「神の愛」、「聖霊の交わり」

*この場合の「の」は、文法的には「Genitive（属格）」と呼ばれる。

*属格とは、名詞や代名詞が「誰のものか」を示す形を指す。

(2) 「キリストの恵み」

①これは、キリストが与えてくださった恵みである。

②キリストは十字架上で死に、信じる者に罪の赦しを与えてくださった。

③クリスチャン生活の土台は、キリストの恵みにある。

④キリストの恵みにとどまるなら、律法主義から解放される。

(3) 「神の愛」

①神の愛は、御子イエスを犠牲にすることによって明らかにされた。

②信者の行動の動機は、神の愛である。

③神の愛に感謝する者は、利己的な振る舞いや分派から解放される。

(4) 「聖霊の交わり」

①これは、聖霊が作り出す「聖徒の交わり」である。

②これは、クリスチャンでなければ味わえない交わりである。

③その祝福がないなら、コリント人への手紙第二を何度も読むべきである。

*罪を犯し続ける者たちの処分の後に、真の信者の交わりが成就する。

2024 年 12 月 15 日（日） 2 コリ 13 : 11～13

結論：コリント人への手紙第二 13 章 13 節

2Co 13:13 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにありますように。